

令和3年7月6日
豊島区

東京都が発行する「東京ソーシャルボンド」の購入について

令和2年7月、豊島区は東京都で初めて「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」にダブル選定され、SDGsの目指す「誰一人取り残さない」社会の実現に取り組んでいます。

基金の運用においてもSDGsの推進に貢献するため、令和3年7月6日、東京都が発行する「東京ソーシャルボンド」を購入しました。

○ 選定理由

- ・ 「東京ソーシャルボンド」は、地方自治体として発行する初のソーシャルボンドとなる。
- ・ 「東京ソーシャルボンド」により調達された資金は、「特別支援学校の整備」「チャレンジスクールの整備」「雇用・就業促進施設等の整備」「中小企業制度融資の預託金」など、支援が必要な人々を支える事業に活用される。
- ・ 上記の取り組みは、これまで本区が進めてきた「誰もが主役になれる『国際アート・カルチャー都市』」の実現や、SDGsの理念と同じ方向を目指すものである。

今後も本区は、SDGs未来都市として、SDGsの理念や目標を踏まえて積極的な取り組みを推進し、国際アート・カルチャー都市の実現に努めてまいります。

※ SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業とは

「SDGs未来都市」とは、SDGsの理念に沿った取り組みを推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通し、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を内閣府が選定するもの。また、その中で特に先導的な取り組みが「自治体SDGsモデル事業」として選定される。

[「SDGs未来都市」豊島区](#)

※ ソーシャルボンドとは

資金使途が社会的課題の解決に資するものに限定される債券。「東京ソーシャルボンド」は、国際的なソーシャルボンド原則に適合しているとの第三者評価を得ている。